

平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年2月12日

上場会社名 カドカワ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9468 URL <http://info.kadokawadwango.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川上 量生
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 松原 眞樹 TEL 03-3549-6370
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績（平成27年4月1日～平成27年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	146,038	—	6,290	—	7,613	—	5,324	—
27年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 5,663百万円 (—%) 27年3月期第3四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	76.63	—
27年3月期第3四半期	—	—

当社は、平成26年10月1日に株式会社ドワンゴと株式会社KADOKAWAの共同持株会社として発足いたしました。前期（平成26年10月1日から平成27年3月31日）は6ヶ月間であり前第3四半期連結累計期間が存在しないため、平成27年3月期第3四半期については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第3四半期	196,585	103,436	52.2	1,513.25
27年3月期	205,673	104,248	50.2	1,457.83

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 102,583百万円 27年3月期 103,206百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	—	—	10.00	10.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成28年3月期の連結業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	200,500	—	7,000	—	6,800	—	4,000	—	56.00

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期3Q	70,892,060株	27年3月期	70,892,060株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	3,101,795株	27年3月期	97,194株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期3Q	69,489,567株	27年3月期3Q	－株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・平成28年3月期の連結業績予想に関しましては、同期間の前期に相当する期間である平成27年3月期が平成26年10月1日から平成27年3月31日までの6ヶ月間となっていることから、対前期増減率については記載しておりません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、出版、映像分野で培った編集力とIPの創出により、ユニークコンテンツをマルチなメディアに展開し収益を最大化させるノウハウと、高度なネットワーク技術から独自のネットサービスを生み出しリアルイベントと融合させるなど、ユニークなITサービスを創出できる強みを有しております。

コンテンツを取り巻く環境やネットサービスが急激に変化している状況下、当社グループは出版、映像事業においては大規模な構造改革を行い収益性の回復に努める一方、今後さらに成長が期待できる電子書籍や動画配信、ゲームなどのネット・デジタル領域において、高い競争力を誇るコンテンツとネットワーク技術を最大限活用し、新しいビジネスの創造による事業の拡大を図っております。

当第3四半期連結累計期間における各セグメント別の業績は、以下のとおりです。

なお当社は、平成26年10月1日に、㈱ドワンゴと㈱KADOKAWAの共同持株会社として発足いたしました。前期(平成26年10月1日から平成27年3月31日)が6ヶ月間であり、前第3四半期連結累計期間が存在しないため、前年同四半期比の増減率については記載しておりません。

書籍IP事業においては、メディアミックス作品の展開やUGC (User Generated Content) の積極的な商品化などを進めています。またコミックで「よつぱと!」「乙嫁語り」などの人気シリーズに加え、「僕だけがいない街」「ダンジョン飯」などの新たな成長作品の新刊が発売され業績に貢献いたしました。

一方、市場規模の拡大が続く電子書籍においては、直営の電子書籍ストア「BOOK☆WALKER」や外部電子書籍ストアでの積極的な販売促進施策や、dマガジンの会員数増が続き、売上高は引き続き伸張を続けております。さらなる市場拡大をはかるため平成27年10月には「ニコニコカドカワ祭り」を実施いたしました。

以上の結果、売上高は565億51百万円、セグメント利益(営業利益)は49億10百万円となりました。

情報メディア事業においては、雑誌販売収入や広告売上の減少が続く市場環境に対応するため、引き続き不採算事業からの撤退や、紙媒体からデジタルへの移行を進め収益性の改善に取り組んでおります。また、ブランド力、企画力を生かした企業向け販促物の作成やスマートフォン向けのサービス開発に注力し、事業構造の転換を進めております。

以上の結果、売上高は208億72百万円、セグメント損失(営業損失)は11億64百万円となりました。

映像IP事業においては、「オーバーロード」や「ハイスクールD×D」などのアニメ作品を中心にDVD、Blu-rayの販売が堅調に推移しております。また、dアニメストアなどの映像配信収入や急激に市場が拡大している海外映像著作権販売ビジネスも伸張を続けております。

以上の結果、売上高は199億2百万円、セグメント利益(営業利益)は6億6百万円となりました。

ポータル事業においては、日本将棋連盟との共催で新棋戦「第1期叡王戦」を開催し16名のプロ棋士による本戦トーナメント全対局を「ニコニコ生放送」で完全生中継いたしました。また、平成27年12月31日には第66回NHK紅白歌合戦とのコラボレーションを行い、視聴者から書き込まれたコメントがステージ上のセットに流れる演出が行われ、大きな話題となりました。

これらの取り組みにより、平成27年12月末には発行ID数は5,321万、様々な特典が受けられる有料の「プレミアム会員」は254万人となりました。

以上の結果、売上高は150億38百万円、セグメント利益(営業利益)は19億96百万円となりました。

ライブ事業においては、平成27年10月25日、ニコニコ内の各カテゴリで活躍するユーザーが登場するニコニコ最大のライブイベント「ニコニコ超パーティー」をさいたまスーパーアリーナで開催いたしました。また、ニコニコ本社のある東京・池袋において「池袋ハロウィンコスプレフェス2015」に参画し、豊島区などの協力も得て大規模なイベントとなりました。

以上の結果、売上高は32億18百万円、セグメント損失(営業損失)は7億49百万円となりました。

モバイル事業においては、スマートフォン向けの高音質楽曲サービス「ドワンゴジェイピー」が人気グループ最新シングルの独占先行配信や「niconico」の人気ボカロ楽曲の充実など、独自サービスの拡充に努めました。また、日本相撲協会公式「大相撲 for スゴ得」がNTTドコモ「スゴ得コンテンツ(R)」にて提供が開始されました。

以上の結果、売上高は66億20百万円、セグメント利益(営業利益)は26億34百万円となりました。

ゲーム事業においては、(株)フロム・ソフトウェア、(株)スパイク・チュンソフト、(株)角川ゲームス、(株)MAGES.、(株)KADOKAWAがパッケージゲームソフト及びネットワークゲームの企画・開発・販売をしており、「RPGツクールMV」などが売上に貢献いたしました。

以上の結果、売上高は100億22百万円、セグメント利益（営業利益）は9億65百万円となりました。

その他においては、キャラクター商品やアイドルCDのeコマース、アニメや「niconico」から生まれたコンテンツの販売や著作権利用料収入、クリエイティブ分野で活躍する人材を国内外で育成するスクール運営などが主な売上となっております。

以上の結果、売上高は168億21百万円、セグメント損失（営業損失）は31百万円となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,460億38百万円、営業利益62億90百万円、経常利益76億13百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益53億24百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前期末に比べて90億87百万円減少し、1,965億85百万円となりました。自己株式の取得、事業構造改善費用及び法人税等の支払等により現金及び預金が減少しました。

負債は、前期末に比べて82億76百万円減少し、931億48百万円となりました。事業構造改善費用の支払等によりその他流動負債が減少したことに加えて、長期借入金の返済等により固定負債が減少しました。

純資産は、前期末に比べて8億11百万円減少し、1,034億36百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したものの、自己株式の取得により株主資本が減少しました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益78億62百万円を計上したものの、事業構造改善費用及び法人税等の支払に加え、当第3四半期会計期間末が金融機関休業のため売上債権の回収が先送りになったこと等により、39億32百万円の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預け入れや有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出等により、24億84百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済、連結子会社株式の追加取得、自己株式の取得による支出等により、80億74百万円の支出となりました。

以上の結果、為替換算差額も含めて145億25百万円の支出となり、現金及び現金同等物の四半期末残高は、446億76百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期の業績見通しにつきましては、当社グループを取り巻く事業環境の変化は早く、それに伴い当社の業績も短期的に大きく変動することも想定されることから通期業績のみを開示することとしております。

なお、平成28年3月期第3四半期連結累計期間において、親会社株主に帰属する四半期純利益については、平成27年5月14日付けで公表した「平成28年3月期の通期連結業績予想」の親会社株主に帰属する当期純利益に対する軽微基準を上回っておりますが、現時点では連結業績予想の修正については行わないことといたしました。また、通期個別業績予想につきましては、平成27年11月12日付けで公表した「個別業績予想の修正に関するお知らせ」から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	63,207	50,528
受取手形及び売掛金	40,997	45,417
たな卸資産	15,918	17,588
その他	12,246	12,343
貸倒引当金	△1,169	△1,391
流動資産合計	131,200	124,486
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,303	11,654
工具、器具及び備品（純額）	3,334	3,103
土地	19,047	19,035
その他（純額）	1,664	1,587
有形固定資産合計	36,350	35,380
無形固定資産		
のれん	366	163
その他	5,631	6,396
無形固定資産合計	5,997	6,559
投資その他の資産		
投資有価証券	20,504	19,664
その他	11,759	11,182
貸倒引当金	△139	△687
投資その他の資産合計	32,124	30,159
固定資産合計	74,473	72,099
資産合計	205,673	196,585

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,070	24,048
短期借入金	2,258	2,338
賞与引当金	2,042	909
ポイント引当金	107	82
返品引当金	7,921	7,957
株式給付引当金	—	49
役員株式給付引当金	—	92
その他	25,916	21,313
流動負債合計	63,316	56,791
固定負債		
長期借入金	29,340	27,704
退職給付に係る負債	3,567	3,382
その他	5,200	5,270
固定負債合計	38,108	36,356
負債合計	101,425	93,148
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,625	20,625
資本剰余金	65,386	64,649
利益剰余金	16,130	20,746
自己株式	△195	△4,895
株主資本合計	101,946	101,126
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△264	38
為替換算調整勘定	1,719	1,571
退職給付に係る調整累計額	△194	△152
その他の包括利益累計額合計	1,260	1,457
非支配株主持分	1,041	853
純資産合計	104,248	103,436
負債純資産合計	205,673	196,585

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
売上高	146,038
売上原価	102,728
売上総利益	43,310
販売費及び一般管理費	37,019
営業利益	6,290
営業外収益	
受取利息	50
受取配当金	303
持分法による投資利益	595
受取保険金	438
その他	261
営業外収益合計	1,648
営業外費用	
支払利息	72
寄付金	240
その他	12
営業外費用合計	325
経常利益	7,613
特別利益	
投資有価証券売却益	286
関係会社清算益	106
その他	9
特別利益合計	403
特別損失	
投資有価証券評価損	130
その他	23
特別損失合計	154
税金等調整前四半期純利益	7,862
法人税等	2,386
四半期純利益	5,475
非支配株主に帰属する四半期純利益	150
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,324

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
(自 平成27年4月1日
至 平成27年12月31日)

四半期純利益	5,475
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	302
為替換算調整勘定	△120
退職給付に係る調整額	42
持分法適用会社に対する持分相当額	△35
その他の包括利益合計	188
四半期包括利益	5,663
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	5,522
非支配株主に係る四半期包括利益	141

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第3 四半期連結累計期間
(自 平成27年4月1日
至 平成27年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	7,862
減価償却費	3,165
のれん償却額	203
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	770
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△26
返品引当金の増減額 (△は減少)	35
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,132
受取利息及び受取配当金	△353
投資有価証券売却損益 (△は益)	△286
持分法による投資損益 (△は益)	△595
投資有価証券評価損益 (△は益)	130
売上債権の増減額 (△は増加)	△4,991
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,690
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,005
前受金の増減額 (△は減少)	1,278
その他	△16
小計	3,346
利息及び配当金の受取額	473
利息の支払額	△61
事業構造改善費用の支払額	△5,118
法人税等の支払額	△2,571
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,932
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の純増減額 (△は増加)	△1,682
有形固定資産の取得による支出	△1,829
無形固定資産の取得による支出	△2,029
投資有価証券の取得による支出	△413
投資有価証券の売却による収入	2,147
出資金の分配による収入	513
子会社の清算による収入	300
その他	509
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,484
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△1,556
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△1,329
非支配株主からの払込みによる収入	287
自己株式の取得による支出	△6,482
自己株式の売却による収入	1,762
配当金の支払額	△707
その他	△48
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,074
現金及び現金同等物に係る換算差額	△33
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△14,525
現金及び現金同等物の期首残高	59,201
現金及び現金同等物の四半期末残高	44,676

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成27年8月6日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期連結累計期間において市場買付けにより自己株式3,000,000株を取得いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が4,712百万円増加したこと等により、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が4,895百万円となっております。

また、平成27年9月11日付で、連結子会社(株)フロム・ソフトウェアの株式を追加取得し、完全子会社化いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が726百万円減少したこと等により、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が64,649百万円となっております。

(セグメント情報等)

当第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					
	書籍IP事業	情報メディア事業	映像IP事業	ポータル事業	ライブ事業	モバイル事業
売上高						
外部顧客への売上高	55,267	20,529	19,621	14,877	3,175	6,616
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,284	342	281	161	42	4
計	56,551	20,872	19,902	15,038	3,218	6,620
セグメント利益又は損失(△)	4,910	△1,164	606	1,996	△749	2,634

	報告セグメント		その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
	ゲーム事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	9,960	130,048	15,978	146,027	11	146,038
セグメント間の内部売上高又は振替高	61	2,177	843	3,020	△3,020	—
計	10,022	132,226	16,821	149,048	△3,009	146,038
セグメント利益又は損失(△)	965	9,200	△31	9,168	△2,877	6,290

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれないグッズ販売等の事業活動を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,877百万円の主内訳は、セグメント間取引消去87百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益1,329百万円、全社費用△4,294百万円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。